

■ 1、海外の協定相手校

	校数
協定相手校	4

■ 2、社会貢献活動

	活動数
社会貢献活動	23

■ 3、大学間連携

	連携数
大学間連携	3

■ 4、産官学連携

	連携数
産官学連携	27

1. 海外の協定相手校

国名	大学名	概 要
Canada	MacEwan University	現在4大学と大学間連携協定を締結しており、学生交流をはじめ今後教員連携、共同研究を実施予定です。また、本学学生は短期海外研修にて各大学で語学研修および医療施設見学実習等を実施しています。
Australia	Curtin University	
South Korea	Sahmyook University	
Tunisia	Higher Institute of Medical Technologies Tunis El Manar	

2. 社会貢献活動

森ノ宮医療大学 市民公開講座「予防・治療から社会復帰へのケア～最近の進歩～」				参加数
10月25日	第25回	フレイル予防で健康長寿	内科医(老年医学)、本学教員	89

本学が連携協定を結ぶ医療機関の協力を得て年に3回開催する公開講座です。毎回身近な疾患を共通テーマに、基調講演では医師が診断や治療についてわかりやすく講演し、学内の3人の研究者がそれぞれの専門分野を活かしてケアやリハビリなどについて講演します。20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により1回のみの開催となりました。

森ノ宮医療大学 地域子育て支援事業「もりもりひろば」				家族数	参加数
4月11日	第87回	赤ちゃんがいる家庭の「防災対策」 ※中止			
5月9日	第88回	がんばりすぎない子育て ※中止			
6月9日	第89回	離乳食から幼児食へ ※中止			
7月11日	第90回	保健師課程学生による健康教育 ※中止			
9月5日	第91回	ベビーマッサージ ※中止			
10月10日	第92回	小児鍼によるファミリーケア		0	0
11月14日	第93回	赤ちゃんがいる家庭の「防災対策」		1	4
12月12日	第94回	子どもの感染症を予防しよう ※中止			
1月23日	第95回	お母さんのヨーガ ※中止			
3月6日	第96回	赤ちゃんの運動発達 ※中止			
合 計				1	4

本学看護学科教員が支援する子育て家族支援プロジェクトです。子育て中の家族の交流や、育児に生かせる知識の提供、絵本や親子遊び・集団遊びを通じて地域や親子の絆を深めることを目的に、「育児」や「育自」の知恵、知識そして地域力をパワーアップしていただくための参加型教室です。希望者には身長・体重計測を行っています。20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、10月・11月のみの実施となりました。

森ノ宮医療大学 介護予防教室「ほほえみくらぶ」(回数数は年度内の数字)				参加数
4月	第13回	※企画段階で中止が決定		
5月	第14回	※企画段階で中止が決定		
6月	第15回	※企画段階で中止が決定		
7月	第16回	※企画段階で中止が決定		
8月	第17回	※企画段階で中止が決定		
9月	第18回	※企画段階で中止が決定		
10月17日	第19回	健康習慣の作り方(運動を中心に)		23
11月21日	第20回	たっぶりスリーA		20
12月19日	第21回	チェアーヨガ ※中止		
1月16日	第22回	たっぶりスリーA ※中止		
2月20日	第23回	骨粗鬆症の特徴と検査について ※中止		
3月20日	第24回	ちょっと役立つ摂食・嚥下の基礎知識 ※中止		
合 計				43

本学看護学科教員が「もりもりひろば」の高齢者向け講座として始めた認知症予防を目的とした教室です。内容は「講習」「体験:脳活性化ゲーム・笑いヨガ・ダンス」「実習:介護福祉機器の使い方・介護食」等を実施しています。20年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、10月・11月のみの実施となりました。

もりもり まちの保健室		概 要
毎月1回開催	森ノ宮医療大学 地域の健康に関する相談窓口 「もりもり まちの保健室」	大阪市の南港にある「太陽のまち地区」で開催されている「ふれあい喫茶」の中で、「もりもり まちの保健室」を実施しています。本学の教員や学生が喫茶の利用者と交流し、健康に関する相談受付やバイタルサインの測定、健康に関する情報提供などを行っています。健康関連の測定やご相談だけでなく、病気や障害、別れをはじめとする「こころ」の悩みも受け付けています。

その他のイベント等		概 要
毎月 第3火曜日 14時～15時	もりもり元気体操	大阪市住之江区内の福祉会館において、2015年より地域在宅自立高齢者の介護予防を目的とした「もりもり元気体操」を実施しています。本学理学療法学科教員が行っているもので、毎月20名程度の方々に参加いただいています。
11 月 8 日	防災学習	本学近隣に位置する大阪市立南港北中学校にて、本学看護学科教員による防災学習を実施しました。この活動では中学生が地域社会の担い手として防災に関わることを目的に、実際の負傷者と同じ状況を想定した体験を行いました。
3 月 12 日	南港北中学校卒業式	本学近隣に位置する大阪市立南港北中学校の卒業式に本学施設をお貸しし、本学の学生たちから卒業する中学生へメッセージを記した折り紙を作成し、「祝卒業」の文字を作って送りました。
3 月 29 日	命の授業	本学近隣の小学校内の学童に通う児童を対象に、本学助産学専攻科の教員が性教育の教室を行いました。新型コロナウイルスにより、小学校にて外部講師を招いての性教育の授業ができていなかったこともあり、児童や保護者にも「貴重な機会だった」との評価をいただきました。

3. 大学間連携

連携数	連携先
3 校	相愛大学、学校法人常翔学園、放送大学

4. 産官学連携

医療施設と密接な協力、連携、人材交流を行うことを目的に、相互連携協定を締結し、学生の実習の場、地域医療の活性化の領域を広げています。

また、近隣及び関係する行政機関とも協定を締結し、学生の教育現場の体験、教職員相互の交流を目指します。

	連携締結年	連携協定締結先	目指す取組の概要等
1	平成22年 4 月 6 日	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	共同研究の実施、セミナー・研修会への相互受入、人材の相互派遣、本学学生の実習の受入、学生ボランティアの派遣 等
2	平成23年 7 月 11 日	医療法人協和会 千里中央病院	本学の教員の臨床研究の受入、本学学生の実習の受入 等
3	平成23年 12 月 9 日	医療法人 錦秀会	共同研究の実施、人材の相互派遣、本学教員の臨床研究の受入、本学学生の実習及び就職の受入 等
4	平成25年 5 月 27 日	公益社団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等
5	平成26年 1 月 9 日	大阪市住之江区	住之江区の健康づくり事業への教員及び学生ボランティアの派遣、本学学生の実習及び就職の受入、市民公開講座の共催 等
6	平成26年 1 月 15 日	医療法人 協和会	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等
7	平成26年 2 月 19 日	中国 浙江省人民医院	(学術交流に関する協定) 共同研究の実施、研究者および学生の交流 等
8	平成26年 6 月 3 日	大阪府 高槻市教育委員会	大学と高槻市立学校教職員の相互交流、本学学生の教育現場体験及び地域活動支援の推進 等
9	平成26年 11 月 19 日	医療法人社団有隣会東大阪病院	本学教員による臨床研究及び技術指導の受入、人材の相互派遣、本学学生の実習及び就職の受入 等

	連携締結年	連携協定締結先	目指す取組の概要等
10	平成26年 11 月 25 日	吹田市教育委員会	大学と吹田市立学校の教職員相互の交流、本学学生 の教育現場体験及び地域活動支援の推薦 等
11	平成27年 2 月 19 日	学校法人相愛学園 相愛大学	教育研究活動及び大学行事、学生の自治活動及 びサークル活動、地域の医療・福祉・健康に関わる 貢献等についての連携・協力
12	平成27年 3 月 9 日	社会医療法人景岳会南大阪病院	本学教員による臨床研究の受入、人材の相互派 遣、施設の相互利用、本学学生の実習及び就職の 受入 等
13	平成27年 4 月 15 日	大阪市教育委員会	学校支援学生ボランティア事業
14	平成27年 7 月 27 日	守口市教育委員会	大学と守口市立学校の教職員相互の交流、本学学 生の教育現場体験及び地域活動支援の推進 等
15	平成28年 1 月 29 日	社会福祉法人帝塚山福祉会	共同研究の実施、本学教員の臨床研究の受入、人 材の相互派遣、施設の相互利用、本学学生の実習 及び就職の受入 等
16	平成28年 6 月 13 日	大阪国際がんセンター (旧 大阪府立成人病センター)	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生への研究指 導の受入 等
17	平成28年 8 月 22 日	学校法人 常翔学園	スタッフディベロップメントにおける大学間連携
18	平成29年 2 月 24 日	社会医療法人純幸会 関西メディ カル病院	共同研究の実施、本学教員による臨床研究の受 入、人材の相互派遣、本学学生の実習の受入 等
19	平成29年 10 月 5 日	株式会社 かなえるリンク	本学教員による臨床研究の受入、人材の相互派 遣、施設の相互利用、本学学生の実習及び就職の 受入 等
20	平成30年 1 月 18 日	放送大学	単位互換に関する協定
21	平成30年 1 月 26 日	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入 等
22	平成30年 4 月 19 日	ミズノ株式会社	新商品開発・研究面での共同作業の推進、施設の 相互利用、高等学校への活動支援、地域への社会 貢献活動 等
23	平成30年 11 月 1 日	近畿大学病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入 等
24	平成30年 12 月 3 日	大阪重粒子線センター	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入 等
25	令和2年 9 月 7 日	社会医療法人愛仁会	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入、大学院NPコースの設置協力等
26	令和2年 10 月 5 日	独立行政法人 地域医療機能推 進機構 大阪みなと中央病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入、本学学生の救急受入等
27	令和2年 11 月 30 日	イカリソース株式会社	教育・研究・医療・文化の振興、人材育成、スポー ツ振興、社会貢献等の分野における相互協力
28	令和2年 12 月 21 日	独立行政法人 地域医療機能推 進機構 大阪病院	共同研究の実施、人材の相互派遣、施設の相互利 用、本学学生の実習の受入、大学院生の研究指導 の受入 等



地域とつながる 森ノ宮医療大学

— 2020年度の社会連携事業 —

想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

学長からのご挨拶

森ノ宮医療大学は、大阪市住之江区の咲洲地区に2007年4月に誕生した医療系総合大学です。現在は、保健医療学部看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科の7学科と大学院（修士課程、博士後期課程）、助産学専攻科があり、医療職や研究職、教育職に就くことを目指す約1,800名の学生たちが学んでいます。



新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年からは様々な活動が制限される状況が続いていますが、本学は厳しい医療現場で活躍する医療人育成の責務を果たすため、試行錯誤の日々を送っています。そしてまた、このような状況下でも、地域にお住まいの皆様をはじめ、企業や自治体と連携し、多様な地域貢献活動を展開していきたいと思っています。地域に根付く医療系総合大学として、健康や医療に関わる教育研究活動と、地域・社会に向けた情報発信を続けて参ります。

2021年 6月
森ノ宮医療大学 学長 青木 元邦

市民公開講座 予防・治療から社会復帰へのケアー最近の進歩ー

市民公開講座は大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンターと本学の連携事業として2012年にスタートいたしました。「予防・治療から社会復帰へのケアー最近の進歩ー」をサブタイトルに掲げ、健康に興味関心のある一般市民の皆様を対象とした市民公開講座を開催しています。これまでに通算25回開催し、累計1,710名の方々に参加いただきました。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により1回のみの開催となりましたが、感染防止に配慮し、参加された方々からはご好評をいただきました。

市民公開講座のこれまでのテーマ

2012年

第1回	6月16日	がん
第2回	7月22日	心臓病
第3回	9月23日	脳卒中

2013年

第1回	7月20日	糖尿病
第2回	9月16日	認知症
第3回	11月3日	肺がん

2014年

第1回	6月22日	肝炎・肝がん
第2回	8月10日	前立腺肥大・前立腺がん
第3回	11月2日	慢性腎臓病

2015年

第1回	6月21日	臨床検査の進歩
第2回	9月13日	胃がん
第3回	11月1日	関節リウマチ

2016年

第1回	6月19日	乳がん
第2回	9月11日	骨粗鬆症
第3回	10月30日	高齢者と眼疾患

2017年

第1回	6月18日	心不全
第2回	9月17日	子宮がん・卵巣がん
第3回	10月29日	高齢者の耳鼻科疾患

2018年

第1回	4月15日	命を守る臨床工学
第2回	6月17日	がん診療の最前線
第3回	10月28日	パーキンソン病

2019年

第1回	4月14日	物忘れ
第2回	6月16日	診療放射線学の進歩
第3回	10月27日	がん診療の最前線2

2020年

第1回	6月21日	フレイル予防で健康長寿
-----	-------	-------------

2020年度 第1回 市民公開講座「フレイル予防で健康長寿」

【基調講演】杉本 研 先生

基調講演として、川崎医科大学総合老年医学教授の杉本研先生にご講演をいただきました。まずはじめに、日本における高齢化の現状についてご説明いただきました。日本人の平均寿命は延びている一方で、人の手を借りずに健康に日常生活を送ることができる期間である健康寿命は男女ともに平均寿命より短く、この平均寿命と健康寿命のひらきが短くなることが、介護高齢者の減少につながるそうです。

次にフレイルと関係の深い「転倒」についてご説明いただきました。転倒は、筋力やバランス能力といった加齢による変化（内的要因）や室内の段差などの生活環境の問題（外的要因）、さらには過去の転倒に対する恐怖心が関係しあうことによって生じること、中でもバランス能力の低下は転倒の重要な要因となるため、自身のバランス能力の程度を知ることが必要であるとお話いただきました。

次にフレイルについて詳しくご説明いただきました。フレイルとは、要介護（身体機能障害）に陥りやすく、健康状態にも戻りやすい前要介護状態であること、フレイルは生活習慣病とも関連が深く、近年増加している糖尿病患者はフレイルになりやすいため注意が必要であることをお話いただきました。加えて、フレイルの簡単な判定方法もご紹介いただきました。



最後にフレイル予防、改善についてご説明いただきました。筋力向上と低栄養予防がフレイル予防及び改善の近道であることから、筋力向上では膝の曲げ伸ばしなどを行うこと、低栄養予防では豚肉や魚などたんぱく質を意識した食事をバランスよく摂ることが重要であるとお話いただきました。

このように、フレイルを評価し、フレイル状態においても適切な運動と栄養管理を行うことで改善を期待できるため、自身の機能状態を知り、自覚することの大切さを学ぶことができた講演でした。

【講演Ⅰ】杉本 圭 先生

森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科助教（現：講師）の杉本圭先生に「フレイルの改善・予防のための運動療法」をテーマにご講演いただきました。まず、フレイルとバランス機能の低下についてご説明いただきました。加齢に伴って骨格筋量は低下し、筋力や身体機能の低下が起ること、その結果、移動能力やバランス能力が低下してしまうこと、またこのようなフレイルに陥ると転倒のリスクや移動能力の悪化が進んでしまうこととお話いただきました。そして、一度転倒してしまうと再転倒への恐怖心など心理的負担を増大させてしまい、フレイルとなる悪性サイクルが発生しやすくなるため、まずは転倒を予防することが大切であるとお話いただきました。

次にバランス能力と移動能力の評価方法についてご説明いただきました。これは、自らのバランス能力や移動能力を自覚することで、転倒を起点としたフレイルを防止する上で重要とされています。自身で簡単にできるバランス能力の評価方法を2つご紹介いただきました。

次に移動機能の評価方法である立ち上がりテストをご紹介いただきました。これも一人で簡単に試すことができ、移動機能の低下がどの程度進行しているかの基準を知ることができます。

最後にフレイルの改善および予防のための運動療法についてご説明いただきました。フレイルの対策方法としてレジスタンス運動がきわめて重要な方法として挙げられており、片脚立位保持やスクワット、ヒールレイズ、フロントランジといった運動を行うことでフレイルや転倒予防に効果があることとお話いただきました。

このように身体的フレイルに対する評価方法や運動療法について学ぶことのできる講演でした。



【講演Ⅱ】南部 登志江 先生

森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科教授の南部登志江先生に「フレイルと看護」をテーマに栄養とオーラルフレイルの視点からご講演いただきました。

まず始めに、フレイルと栄養の関係についてご説明いただきました。フレイル予防として十分な栄養、特にたんぱく質やアミノ酸の摂取が必要であること、フレイル状態では通常よりも多くのたんぱく質の摂取が必要であることをお話しいただきました。たんぱく質の減少は様々な病気のリスクを高めてしまうことも、具体的な例を交えてお伝えいただきました。加齢とともに栄養素の吸収率が悪くなってしまうため、より多くの栄養を摂取しなければならないこと、無理なく摂るためには、何回かに分けて食べたり様々な食品から摂取したりすることも必要であるとお話しいただきました。

次にオーラルフレイルについてご説明いただきました。口には食べたり飲み込んだり多様な役割がある中で、オーラルフレイルは口腔機能の低下だけではなく、身体全体の機能低下につながってしまうため、しっかり噛んで食べることでできる食材を取り入れることが大切であるとお話しいただきました。その対策として、「パタカラ体操」という、口腔内の機能を簡単に鍛えることができる方法もご紹介いただきました。



また、高齢者は唾液の分泌量減少により、口腔内の乾燥が多くみられ、むせたり食べ物がのどにつまりやすくなったりするため、その対策として「唾液腺マッサージ」を食前に行うことで唾液が出やすくなり口腔内の乾燥を改善することができるとお話しいただきました。

このように口腔機能が向上することで、食事を楽しむことができ、また誤嚥予防にもなり、結果として高齢者のQOLを高めることができることを理解できた講演でした。

QOL (Quality of Life) : 生活の質、人生の質

【講演Ⅲ】坂上 嘉浩 先生

大阪急性期・総合医療センター薬局長の坂上嘉浩先生に「高齢者と薬」をテーマに、高齢やフレイル状態になった際の薬との正しい付き合い方についてご講演いただきました。

まずはじめに、高齢になると身体の様々なところに不具合が出て、服用する薬が多くなるため、注意すべきことが増えるというお話をいただきました。高齢者は若者と違い、身体機能の低下により、薬が効きすぎて副作用が現れたり、多くの薬の服用により薬同士の相互作用が起こったり、視力や聴力の低下により飲み間違いなども起こります。このような薬の服用に関する事故のケースを、イラストを用いて具体的にわかりやすくご紹介いただきました。

次に薬が日常生活に及ぼす影響についてご説明いただきました。高齢者が服用している薬の中には、副作用が起こり日常生活に影響が出るものもあります。例えば、睡眠薬や高血圧治療薬は転倒など運動機能が低下したり、認知機能も低下したりする可能性があり、自動車や機械の操作ミスにつながることもあります。このような副作用が出たら、かかりつけの医師や薬剤師にすぐ相談してくださいとお伝えいただきました。

そして、昨今非常に多くの種類が販売されているサプリメントの危険性についてもお話しいただきました。サプリメントはいわゆる健康食品と呼ばれていますが、その大半が「一般食品」として「健康な人」が健康の維持を目的として使用するものであるため、病気や体調不良の際に使用すると、悪影響を及ぼし、健康被害が発生する場合があります。

またサプリメントの使用により、必要な治療や手術ができないこともあるという、サプリメントの注意点についてもご説明いただきました。

薬と上手く付き合っていくために、かかりつけ薬剤師を活用し、普段から気軽に相談をすることが、薬での事故を起こさないために重要であると、お教えいただいた講演でした。



もりもりひろば

本学の近隣にお住まいの0歳から1歳半の赤ちゃんとそのご家族を対象に、育児や健康に役立つ情報の提供、家族同士の交流促進などを目的として、大学内で毎月1回「もりもりひろば」を開催しています。看護学科の教員と学生が中心となって運営しており、子育て支援にとどまらず、家族ヘルスプロモーション支援として、お母さんの身体的・精神的健康への提案（がんばりすぎない子育て、お母さんのヨガ、乳がんのセルフチェックなど）にも取り組んでいます。

開催日	テーマ
4月	中止
5月	中止
6月6日	中止
7月11日	中止
9月5日	中止
10月10日	小児鍼によるファミリーケア
11月14日	赤ちゃんがいる家庭の「防災対策」
12月12日	がんばりすぎない子育て（保育士） 【中止】
1月23日	お母さんのヨガ【中止】
3月6日	赤ちゃんの運動発達【中止】



ほほえみクラブ

地域の高齢者のみなさんを対象に、2015年度から毎月第3土曜日に看護学科教員による介護予防教室「ほほえみクラブ」を開催しています。その活動は、認知症予防ゲーム「スリーA」（※）を柱としていますが、理学療法学科・作業療法学科・鍼灸学科の教員の協力も得て、各学科の特徴を生かした健康のサポートを行っています。



※スリーA増田方式認知症予防ゲーム：スリーA（**あ**かるく・**あ**たまを使って・**あ**きらめない）

もりもり まちの保健室

本学が位置する大阪市住之江区にある、南港ポートタウン太陽のまち地域において、2019年度から毎月1回、地域の高齢者支援を目的とした「もりもり まちの保健室」の活動を行っています。この活動は、看護学科・理学療法学科・作業療法学科の教員と学生が参加し、高齢者の方々の血圧・握力等の測定を行うほか、健康に関する生活上の困りごと等の相談を受け付けています。

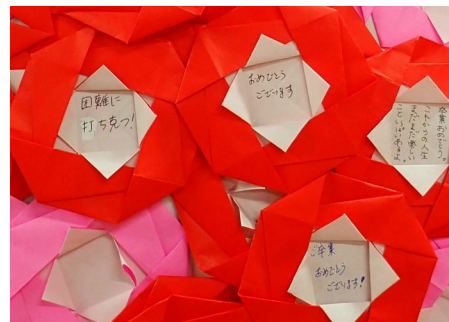
また、将来医療の道に進む学生にとっても、この活動は大変有意義なものとなっています。地域の方々の健康推進のため、今後も継続的に実施していきます。



南港北中卒業式

2021年3月12日(金)、東棟コスモホールで南港北中学校の卒業式が行われました。例年は中学校の体育館で行われていましたが、今年は建替え工事により使用できなかったため、本学施設をお貸しして執り行われました。

本学では看護学科の福島信也教授が中心となり、有志の学生達が、住之江区の花であるさざんかを折り紙で2000個以上作り、それらを組み合わせて「祝卒業」の文字を完成させました。さざんかの一つひとつには本学学生からのメッセージが書かれており、卒業生の方々への贈るエールとなりました。多くの卒業生や保護者が記念撮影をされ、卒業の思い出作りに協力することができました。



防災学習

2020年11月8日（日）、南港北中学校の日曜授業として、本学看護学科の福島信也教授による防災学習会が行われました。

この活動は、中学生が地域社会の担い手として防災に関わることを目的とし、本学看護学科で教材として使われている人形を使用して負傷者を運ぶ体験が行われました。

実際の負傷者と同じ状況を想定し、どのように対応したらいいのかを考えることで、中学生にとって地域の防災について考える良い機会となりました。



もりもり元気体操

住之江区の安立連合町会福祉会館において、2015年から地域在宅自立高齢者の介護予防を目的とした「もりもり元気体操」を毎月第3火曜日の14時～15時に行っています。

この活動は住之江区社会福祉協議会からの依頼により、本学理学療法学科の三木屋良輔教授が行っているもので、毎回20名程度の方々に参加していただいています。

活動の一環として年に2回学生を動員した体力測定も実施しており、その場で参加者への生活指導を行っています。



命の授業

2021年3月29日、北田辺学童に通所している小学校高学年生を対象とした命の授業を行いました。

この活動は、本学助産学専攻科の三宅知里助教による、「小学生に自分の体と心の変化を正しく知ってもらい、自分や人との付き合い方を考えることで、健全な大人へと成長する次世代の育成を助ける」ことを目的とした性教育で、小学生15名が参加しました。

コロナ禍のため小学校で外部講師を招いての命の授業が行われていない現状もあり、学童クラブの指導員や見学に来ていた保護者の方から「助産師が性や命について講義を行う貴重な機会であった」という評価を頂きました。



2020年度の連携協定



2020年9月7日(月)、社会医療法人愛仁会と連携協定を締結いたしました。

今後は大学院にNPコース(診療看護師)設置及び特定行為研修実施に向けて共同で取り組みを予定しています。

2020年10月5日(月)、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪みなと中央病院と連携協定を締結しました。

今後は共同研究や実習の実施、人材の相互派遣や施設の相互利用などで協力を進めていく予定です。



2020年11月30日(月)、イカリソース株式会社と連携協定を締結しました。

教育・研究・医療・文化・食の振興、人材育成、スポーツ振興、社会貢献等の分野において相互に協力することを目的とし、連携協力して参ります。



2020年12月21日(月)、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院と連携協定を締結しました。

今後は共同研究や実習の実施、人材の相互派遣や施設の相互利用などで協力を進めていく予定です。



Medi Cafe



Medi Cafe / SAKURA Cafe

2020年春、本学さくらポート2階にさくらカフェがオープンし、秋には食堂棟のメディカフェがリニューアルオープンしました。

こちらは学生・教職員だけでなく地域の方々にもご利用いただくことができ、地域コミュニティの広がりにも貢献しています。

SAKURA Cafe



想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

保健医療学部

■看護学科 ■理学療法学科 ■作業療法学科
■臨床検査学科 ■臨床工学科 ■診療放射線学科 ■鍼灸学科

大学院 保健医療学研究科

■保健医療学専攻(修士課程)
■看護学専攻(修士課程)
■医療科学専攻(博士後期課程)
専攻科 助産学専攻科(1年課程)

